

第24回愛知県老健大会演題発表プログラム

第1部 10:40~11:40

1 第35回全国介護老人保健施設大会 岐阜 演題発表 奨励賞

看取りに際しての意思決定支援

医療法人財団 愛泉会 老人保健施設愛泉館 看護師長

終末期の高齢利用者に対し、多職種連携とACPを通じ本人意思を尊重したケアを実践し、家族理解を得ながら入浴や面会など希望する最期を支援した事例を報告する。

2 尿失禁における汚染件数の減少について

医療法人 杏園会 介護老人保健施設トリトン 介護福祉士

当施設では、失禁における汚染件数が問題点であがり、職員間で話し合い適切なパット選定・体重に合わせて変更・勉強会での情報共有・パットの吸収量把握を対策立案しました。内容と結果について報告します。

3 食事量がとれない方の食事について

褥瘡や感染症など入院につながるリスクを少なくするために
社会医療法人 杏嶺会 老人保健やすらぎ 管理栄養士

食事摂取量がとれない利用者様に対する少量で栄養をとるための食事の提供基準を作り、スタッフへの低栄養や褥瘡予防の認識を高め、入院・再入院につながるリスクを少なくするための取り組みを行いました。

4 口腔ケアがひらく豊かな暮らし?

多職種連携による継続的口腔衛生管理の実践
医療法人 豊和会 老人保健施設かずえの郷 看護師

歯科専門職と連携した継続的口腔ケアを実践した結果、誤嚥性肺炎予防や職員の意識向上につながり、入所者の豊かな暮らしと生活の質向上に寄与した。

第2部 13:00~14:00

5 第35回全国介護老人保健施設大会 岐阜 演題発表 奨励賞

激戦区での特色作り

医療法人 偕行会 老人保健施設ケア・サポート新茶屋 管理栄養士

近隣に通所サービスが立ち並ぶ激戦区の中でデイケアの特色作りを目的とし、食事イベントを定期的で開催した。調査では95%が満足との結果となった。利用者様の表情やコメントから食べることの喜びを見ることが出来た。

6 Youtubeを利用した推し活

大好きな北島三郎をもう一度
医療法人 幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田 理学療法士

老健入所者で易怒性のみられる認知症高齢者に対して、本人の推しを取り入れた小集団レクリエーションを実施した。個別性を重視した内容により情緒の安定が促され、易怒性に改善がみられたため報告させて頂く。

7 老健における応用行動分析（ABA）を用いたBPSDへの対応

エレベーター利用行動を代替行動へ置き換えた事例報告
医療法人 善樹会 老人保健施設ウエルネス守山 公認心理師

本報告は、老健入所者の帰宅願望に伴うエレベーター利用（離設行動）に対し、応用行動分析（ABA）を用いて代替行動へと置き換えた事例である。多職種連携によるABAの実践の有効性を報告する。

8 チームで行う認知症ケア

減薬とユマニチュードケアの実践によるBPSDの変化
医療法人財団 愛泉会 老人保健施設愛泉館 介護福祉士

重度のBPSDを伴う認知症利用者に対し、認知症ケアの技法であるユマニチュードケアを軸に、減薬や生活環境の整備により、症状の改善と施設生活への適応を図った経過を報告します。

第3部 14:00~15:00

9 第35回全国介護老人保健施設大会 岐阜 演題発表 奨励賞 研修のバリエーションを増やしてみた！

誰もが参加しやすい研修の実施

医療法人 並木会 介護老人保健施設メディコ阿久比 言語聴覚士

変則勤務や感染症の流行により、数日間に分けて研修を実施しても、全職員が対面で研修を行うことが難しくなっている。研修のバリエーションを増やし、実施後にアンケートを取り、次回の研修に繋げるという取り組みについて、課題や改善点も含めて報告する。

10 みんなでヒヤリハットを出そうよ！！

職員の報告意識の向上を図り、連携強化を目指して

医療法人 豊和会 介護老人保健施設さなげ 介護福祉士

生産性向上の一環としてヒヤリハット報告の強化に取り組み、4つの改善と事例共有を進めたことで、報告しやすい環境づくりと意識向上・連携強化につながった取り組みを報告する。

11 ICT化で生まれる「ケアのためのゆとり」

排泄管理業務のデジタル化の取り組み

医療法人 泰玄会 泰玄会老人保健施設 理学療法士

排泄物品の在庫管理をGoogleスプレッドシートでデジタル化し、現在庫入力のみで発注数を自動計算する仕組みを構築した。その結果、業務時間の短縮と計算ミス的大幅な減少を実現し、職員の負担軽減と利用者対応時間の確保に繋がった。

12 外国人職員が働きやすい環境作り

良好な相互関係を築き支援される存在から育成する存在へ

医療法人 幸会 老人保健施設 みず里 介護福祉士

外国人職員が働きやすい環境作りを目的に、定期的なミーティングや業務支援を実施した。相互理解が深まり、外国人職員の主体性や後輩育成への意識向上につながった。